特別
ハ7
4024
1

吉利支丹物語巻第上目録

一 きりしたんけ免そ日ろんへとゝふ事
一 伝ものあつらへあつらへもつふ事
一 きりしたんふみかりの事
一 ひてよし太閤はけそまん車にとゝ乗り
一 日本のお家宗をきりしたんとゝふ事
一 がらんのふみかりときりしたんきりしたんの事
一 くるすとぐんぐんの事

特 1
ハ7
4024
58 2166

一佛ゆうきんけうこうぶつふたをたてる事
一なんぐんをりゆうんをきりうえんくうとれる
一きりゅうこうしたらに入らる事
一こうりゅうこうの事ていたいせいこいの事
一ぜんくうれいぜん長くうまは一きの事
一ほくりくたかせのたゆ上をたかの事
一大人小勇ふりすく人をめつりゆうこう次第九事

宮城県図書館

こうりゅうこんぐんくうをへとる事
どんむてんりゅうを百八代のゆうぎかくれん
りぐりゅうぶわりて。ちうぢ年号のりゅうなし
きんのあきんどぶあ。ぐりて。人ぎんのかくふ
あてたちぶりてんぐとりゅうみこにうだりとふ。ふ
のつあられぬ物を二人きりすりくたりひこけ
と。ぐてきんとふりのなりえんりくらを見る
ふきふのこれすぐ井ぐりのかがのかたぐ

とをつけさらふかゆう。目のたかあるすがめ
ゐねをこつなべるうがこ。ほそこのうさ也
かべちいさくあしてのたかなぐ。ぢいのたうさ。七
ちやくあまりひろて。ふくろを。けふあるくえハ
鳥のそらとなぐあさ夏のけ。ねずこ多めて
ひさ井のうを。ぢりべさうづさ紙。あてうれ乃。
ちやうとをとり物いつるぷりてさうえんず。こ
ろハ。くろ乃なくあくうり。ぢよ人ぢぐりて

物ぶうとせんあんとど。ゆんていかずさまーさすあ
てんをとりとと。かあうふハあつまーさと人みふ
ドあつり。うの名をぷうふがんどてまんをいぷん
ゆ中ふハぷうーさんの。ゆうをんをひろ絵てく
そんぜーとと。ぢえちびを目ぢ乃ゆんをんの
ちふをとうをみるとふ名てこうぷをくさ海くうん
ぐんぐくのゆ作ーさ物をぷふぐりてさふ
とみくーぷうとはの國乃ぢ人。ゆう屋ま

ひとのもの。用うとんのたゆめ。そんそうして。そんれ
ゐうに。ちうていよりかう。みゝーちゆりの。くさつが松
彩ちうあいとうへまいぐ紙りうをもはにとめとする
あつこの國あつちくてきめとせいこの事
飯いこのあそんが國のかづこのもの。ぶぎこやう。
天下はしぬまゝかつて風のちうりくとおびゝ
ちうりくく。こういうんどん わくてに 勢い
ぎう。ちくく。こちら國ゆうりかけ。天下平均

きこ。あつこの國はつちとうの家が。ぎうりうくを
あつらひ。あのきのこをわひぐん屋うきこを
かを屋んあう商はあそうのわみ。かうれ
ぐんぐてまんぐうとちうとさうして。いう者
ぐちをたう。おかせてぐちる。それうちをげのや
かをつのぜうこ。おかせつけられ。がうをうけて。
あつらふはる。二うあつこは主いみはゆゝ出う。
又みはおびとくうのとこうちやうさあびく

ド地ハ、ぢうせんのごとくなり地にて。多ハ稲すゝきを
なかもとゝ。稲なゝくとも、ちうりゝ、ゝきを
ゝ。ぢうりゝ、ちうをひろゞたるふあうり
さて、ハまいかまうを出ふ、ふりんぢゝの大さう
わうを地下まち人きゝゆゝくゝぎ、ゝんの長。
さんまうまうなゝの、ゝに。只地をまゝ
ます。すかまち。さんまうふてんかう十丁。
さんさんのめうゝ。八でうぢうをかうをふ入ろ

なゝの数ハ。十五さんふとちぶ、ちうぐひぢうに地
ゝちうハ。やゝぢ。ひゝし。たうきんゝ下。ちゝぐ
かゞを使て。ちうぢゝ。伝ゝ長ゝ。
ゝなのめうず。ゝれちうハ屋さ紙下ちまて。
ゝびゝちゝき寺をゝ。ちうゝ。ぢうりゝ。
正ゝをゝて、さんといふりのをわすす。日本ハ
じゝ。ゝ地さんすといふゝの。さんハ、ゝんゝ
乃地也。又かうずをといふりの。ちゝとふ地

是ハいつ。このちひのおもせ。さりのごと。加ようく
ぶんをかく。是をおうまんとなづく又ハ
おのをうだ中ハ。らくだ也。世ハ是ハ
ひとり。ものをたづひとと絶て金銀を。財宝
をとりとせて。おうまんおとりて。仏
糧道をうくとして。そんをを七ぶんハ法く
ぶて。ちよ人ハ法をけを。加をひぶんを安
ふ。なハ乃ちくをを法く出ハ邪道内典を云

さて。五ぶんまでハ。ちんぶふそ一ぶいひ屋
ぶて。のちう六ぶん七ぶんハ。あがりうんと安
きうしうんふ内ちう乃事
さてをきうしうんうぶ内ちう乃いまをきくに。
天地ういひやくの内でうすいと。大おうしいとと
仏ハ。ぬいちう内ぶんまうくて。日月をはうう事
しをういとあきうう内て。人ちく。ちうすく。ちんし
雖方ぶう。そくぶをはうう未せり。せう国土

ちんぷうこうて。人ぐんを。おちさせかたきうせ。ぜんを
ぼうのとこ。けうとせよ。ほうこおりめさあ。ふかの来世
ゑとうぶつど。人のちきうすくなりて。でうすのれ
おきてふたりひ。あくちんぶたうのぶどうな
きた。かりふあん屋のといふ。ぢにいくれた中
ふ。名ばごとめ。かうらをうけて。ろーれをうつ。
又ちゑはたがハぢうちあやまりをハちういそうとア
て。これより天上ふあんらくちらくひごうきざい

の正しひうくと。ぢ弁いそしとふ。とどく庶生
きうの中ハく八ちんあり。でうすハちうめを今を
ぢうに不同なたちゑを。おものみを海ぢうふ。
ありうれと思ひて地ごうハなし。悪いぢんして。ひう
人をふうう物をぬと人もあうごとくいふぐち
でうすふあんるとうはけ色ども庶生きちく
なりこと。けく人をとうふくこのふたうすれ
ちゑはたうとぬといふ。あしいちんとして佛の

ゆきへよすのうりぶんざちんぶ。みらいのこ
をいれる。ちりとちことロ。日本のうんさんや
いなごごとく。ちりとちと。もの〇をれくとたく。是
ハもの〇ハ。ほのかりひもなし。でうチ。うんぶまうゆ
と。一ちちぶハあぐめなうとうふちことみぐう。次
ハ。天ロ行げて極びをさう上序。是ハ天上うきう
はうハをすぐり。ふれ。うやまひなうていを次。
をの主ゲあじんをちこふ。ゆ。ゆをみくを物う。

うう。ハあうまりぬさのちうこ。こう次ぬうちををくて。
ちこうこをすうとこゆう。うちぬそいりりうきうご
をすきこをとうちのちうこうとうう。又ハ。ハ
ぶんていやとうて。縄ふうちうやうを。ゆう。ゆうぐ称
ハうちうをくて。はうりためうあくぐくりのうちて
ちをげて。ハうをハとやぜんとまうくこをくて。
血をありのするあり。ゆうぐりぬハうハ。ぬうこや
て。でうぶうハをうげをうしをうぬを。わそか

稲ゑとりをさまもて。そゝけてらびがくろ
ぎもちがいそつひとしゝ蔵をおどあみして。むしい
のうえはたゝぐりて。ぜんとまろくとれ拾ふ
りり也。又ろすすとうふ拾をうんゝとそあろ
かゝ。ぐらりよちゐりをあれまがられとみくう。
さて又寺のうををはうえうけ拾ろおひみ行ゐ
ぶそ。でうすのすをを拾ちきまげふはゝり。
そうあふうげうを流をんすう見ハそとうんうう。

くぐのうのすぐをんを見ぬて。をんとみをを。ん
ぬいとゝぐさをんうめけりをゝみくう。ま
ゝのまハ。ぬいゆんのまをゝて。さんたまりや
といふぬぐう。でうすをうをいぐゝて。ニさいうり
のををいぐれたるすぐをを見するゝ。ぬ六ゐ。
でうすとゝ。俳。天。ぬのあぐたりといりうて
ぬ望うぐひをなすぐゝ。ぶのゝ。ぬりれて
まりをを。実ゐるまぐ新をおりめてさう安九

やの屋いふ。屋ごとせおひて。せうへふひきき
ふ。ふ。ふ。

ふねのりうんのうるふねとをくていのしをうん。
かわしむとものるにこそくるあるんたらふ
ちゑのるにくのぷそのきど。尺ふ中入ふかひ。
ひぐめうるまをいうりをくをいる。たくを
二三さいのまんだう。かぐ尺のちちのかちを尺そい
ゆくめうちとう。ふの中月をくいうんこうぐ。
てふちんとかふ形ちなるをひくれるもの也。
を入みをくれけう。ぎたれはまかるうぐ

ひそうたいうこはきりしゅんうの
秀吉大閤の出陣は吉利支丹車にうちうまり
ぶん行くゆんぐうのぢひでうたうの代ふ。ゆう
でんといふぐそまんをあまうこうす。かの国ふお
ひそぐちんじゃとをうて。げうをうり
うこうして。ひんちゅうぐきどをあいりていぐう。
らいひゃう。ようちゃ たうぐき あるうつうきち
ちんう。ぎうぐちく。秀ちんちふ入うくこ
なうちゅうぐいんの。きうてひふくいもをいふ酒ふ

ごんをだうし。中原ん。世ふとだはびさう相ハ
ぶこうをちかいまて。とねいをしたりまてをまいらせ
わうもんよりのまいいめ門入わうれのぶだ相。
あ原ぢを。こをくちうなう相ぶこそてあ
うをめくあぶこ。大こうをうごおかげ参ふハ。
めんをのおやを。これめぶ様ちんあ門れくよ
あひこれして。ちあみをふこうして。をうていふ
あこ入ぶ。大ぶかこうい。なぶこれをこれ出ハ

ひろ三原。ひやんのおうふ。ひめぶこうくあてて
寺をこれ京ハ五条わり門一条あれこそぶ
ふ大寺をこて。ぶあんぢ人こふものとを
いつまをこうをこういなくれり入。いこれぶこうの
ぶをあ門まりをうと宮ぶこう。注附ふまん
とも原門しをまこ様ぶんあををこいひ合せ
て。ふををうをこと。ふを宮をて。ひぶこうたいこれに
ひんなのめふこうす。あいくまあををひわ様。

人うんを。たぶんすうをさしめて。さいはい
ばうび。うんぶんをこれにて自分をさうはう
こうふあひきまつり。而よりながうたうぶ
ひまりみうれて。そうはうまハれ
とぐ人とをうり。つでうのつぐりうはう
力せ。ろくこれをうた。せうあ人のうち。だそまん
六人。おうまん八人。どうちあくこうていとを也
らく中をひきうれて。とぐふうはうはぢた

さいう井だう。はうまて。てんるふのうて。ひぐん
のなぐうれまて引きうはう。ぢうしうを。で
うすのきぐくあうかうて。天を見あげ山を
なうむまをを霧はをうぐくなけまを事
ぢんはうなうはうつうて。なううたふうを知ふ
けうををうり。ぢりうをぐんうあるううを。
うをはくううけうを。ひあるをうう人とをぬ
すをうり。ぢうハうあうら。ぢうし本殿

はく　ぎうりうて。ゆうりう　ぎうけ。はまひさへの
はうりうひかなひておさいりうにかなりや
　　ゆ　　れ　　ま　　ま　　ま　　ま　　ま　　ま　　ま　　ま

を。へたへうるく。ものいひぶんかハ
きうれきれうらやむ幸なし。えんおかふ
ふあたあるく幸をしを。ちゆすれまんぐ
じいらんぶまを屋きう花見ちうむ屋く
のまを。ぐくをんうとくきてふうりうをとへてを
ぎんふとうをとまり。ふせとハめのをりをすと
うきり女人ハぎりしやうきうぎやくぬうきり
りのなれをあるのおりひ弱りうまてせいをこと

うこはしぎ。きんくこて。おりいとすぬるれ。
ねうをうんで。ちうえんさいどのゑゑ佛
なのりふおりめすと。こうせいふりせり。今
乃世ふハ金銀よりかりてぞいうちれる
なまり。ちりあうち新りをうこぢりおゑハ
さくこんなくきく。だうらんふきりつ成を
ゑ。佛ぢんふぶりしりうかうをとを。こうう
りいきをりけりをもめ。ぢをえこを附紙

のうくのいなくちくハ。かぶりて[illegible]
稲を刈と云。ちくとをりて。ちゐ[illegible]
ばさいおちさなをたちぐくふをちを。ぞ
ものはくはつくハちくふあるまをとぐくにお
はちと云事。せい人のごなり　又ちりうんの
ものをとが。ひらくみてぐんちを。角つぶさ
はるるきぐくふあるす。なんぐん風まちり
まい年ちゐ[illegible]。ぐ[illegible]ふおかい[illegible]事へ。

ちぶきあてられ。ちぐ[illegible]みさーみうさ[illegible]
まて粮をあておくるろく時ハ。むちくちん人
ふみあり事きぐくふあるす。その[illegible]
ぐにはとり以下の。ふくぎれ多ふ[illegible]。
ちくちゐのぐちぐさをうやみく。おかくさハ
くい泥をあらぐ[illegible]て。ぎていふかちものかを
おかしときてはちうへ
日本のぐ[illegible]とこちり[illegible]ぐんまんちゐの事

一えんにえんのうろ。大げつふおひて。さきにしたの
おり。そんきうごんて。ぜ町人きよらう人おもを
そハはんよりうをゐす。をとこ大をゐ大ぜ格宮
ゆくきあんよあまりせるふぐ。きさりにをを
きうんのおりと。をとくもりおきりて行もうん
どうろおくきく。ちうきものいりくをいきをを七
きあんよをとうひ。きいぐをちよりうのををなし
なりおくうりき事おく。をくあけてもこをを

きてぜんぎりあうをうなりおりまんこをおく入記
ひくをくをいかく。ぜんりうのせうををのをを
と作りをふ付ふ をびあんをりていおんを稼ぐ
ずおちとををて。まりふこのうちうくをいあ
のうくこくをぜんこをひぐちりう事をを年ハ
あをつり。をくおりハ六十四五ありまひいぜんう
をくおりと きををいぐいてをを山作をんをを
すをぐおうのををんて をを作をくぐををんぐーおり

ちんぶつ　ちりもとぶこいろり。ちゑうこん　ぶん一二百人
ろうり。ふとぶ　ぶろうでひとん　ぶてて　ちろぶさ
ぶもぶぶ。ぶぶ　まりとうぶ　ぶりてぶろり。ぶぶ　ぶり
ぶくろうぶでぶを　ぶりぶ出て。ぶけろうぶ　うん
ぶうぶろう　三ぶろうぶ　ぶ下をなぶぶく
ろくぶろうぶぶみくぶ　ぶくぶちゑくうんぶぶんぶ
ぶぶうぶぶうす。ぶぶんぶらぶきたちふちゑみく
ぶぶろうぶぶを。ぶぶでぶうぶ乃ぶぶろうぶを

とぶぶとうらぶまげられてぶろくぶかぶさぶ
ぶれぶぶろうぶんをぶたてぶけくぶろうぶ分て
ぶぶぶ　ぶぶぶぶぶ　ぶぶぶぶぶ　ぶてぶぶぶふ
ぶぶぶの入ぶちぶぶぶありぶれぶぶぶぶて
ぶろうまんぶぶぶく。ぶちぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
ふぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
ぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
くぶぶぶで。ぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
とぶぶ　ぶろうまんぶぶぶく　ぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ

らくあるべし。でうすはこの佛は天地ひらけ
そめまさうの佛也。うのうをふるくぐるくぐる
てはるかもうれあるよ。ちんぜん万ぢうめんちくちう
をくにちにちをはつりいぐさんせうまう
やくうのうをちやをあれとまずして二千年
三千年ちのうのちやうみぐを弱んしてちかの
なりりふちんやうのうをうちやくちやうのうを
むのうをんなり。でうすのまんのうはみふうの

きんなり。ちうふぜんをいてなんでうとのう
ぢうれてふあつはぢうものをはちくいぞうとはてうの
ちうぢきああんらくふぢうをあくへとそくめん
あうのとはて。うあるんのまをまをとうあるあ
ぢとはつく。うのつあくへ。あくをぜんもををらく
をうれを善世ふをうふ狂ぢまの氣智。ひ
ずをうぢれなくはぢうふをれて。ちくいをいあ
あうのをはくうをれ。男女の信仰信仏

ゆきのふうりいめ（いみふ）人ぎんたり。伊勢大神
宮ハ伊ざなぎなどいふなりこうさ和雲（づも）の國よりはりたま
人のおなり。八まん大かうりといふを。おうぎんてん
ようとん人ぎんなり。ぶまのうるれハみふゑ
ぎうを稱ぜ正りをとりてうぢう楚うりかう
がゆへふ。でうすの御ちうさう人ぎんふ海をてを
屈くきんこおりめてぢうけんゑまうゑとり義
女乃ゑいるいふ屈くを。うんぐうきんごの御

すうをあつ〳〵ゆゑくて。人ぎんのちよまうをれ
えたまふなりなんぢん國ハ大ちゝみてゆ年
五百千あるゆをとさうぐぐ一ようたり國王（こくおう）
乃ちゝくぢうふいまく。日本（にほん）の人うんどをで
うすの正りをちゝどんそふゑん乃うるなり
ゆをおりめて。ぢうふいぢんりをちのざし國
ふうゝぢうこいふ　ゝくおうけぐうふをて
それうきて。でうすの佛（ほう）のおく井を

なれとゝふ　めうまんちゝていゝてうすの
まんかうのひろさ事ハ。ゝまゝぶ百んみて
人ぎんのちゑふをうびゝゝ　きやうろん山くお
ゆ　くおういくなんを所ゝ百ゝたんで
ゝゝ給へ。でうすといふハ天地ういひやの佛ごけ
給ゝ所ゝとゝてうんぎんふハ三にちゝとつゝめ
毎ゝ天ぢく我てゝふハ天神七代地神五代日
なぎふを。うんぎのふを　あさゝゝ人れを見ゆゝ

でゝゝといふ事ハゝゝめて是をゝく也天地ゝい
ゝ百くの佛ゝハあゝゝすゝく天地ういひや
ゝゝゝの鬼ゝて是ゝ一ふちんらまんぢゝ人
ちく。ちゝゝく日月ゝゝくを使ゝうたまふと
いふたゝまをハちゝひて先へぎんをけゝゝ
てなふのあめふ入ゝやゝうのいれをゝ実ん
のふどくのなれ事ハゝゝをあゝ。たゝかいるの
ちくふなくちゝあめふなゝうゝあゝ人ぎび

ちゝふくめ　ちゝぶくぶくはらうあけうゝ　ゝすり　ゝ
なるゝふきんそれ　ゝ　ゝず。さきのちゝぶくこと
ゝすりを入ゝふくぶくといまんゝあれゝ　ゝ　ゝなり
ゝゝゝのきよだゝぶのふぶくなれ　ゝ　ゝはなし
ゝゝんとハちゝをのまんゝめゝ　ゝ　ゝハれをん
さまんぶゝめそれくのゝゝぶくとりをたり人
ぎんゝと。でゝすゝゝめゝふのふぶくるれゝハゝ
まぶ山ゝたゝをきゝんとゝゝとゝをゝれゝ

ふゝひまぶゝしてすゝゝゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ふきんふ人ぎんをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝの人ぎんゝハ佛ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
で。ゝをゝんぶんゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝゝゝふゝゝゝゝゝふハゝんぶゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
佛也　ゝふふでゝすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いぶゝゝゝたゝの中へむひこめゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ものらふうくとさて。かの屋ゝにむかひ人をたく
あとをとゝまむうんぐわつあさまし化まも
ゆかふれう屋ゝふとをとるれ人ぎんをたくらく
くいそゝいあ屋ゝうこふぐらく。ぐゝくをつくり
あげつおろひ川をいうろう人ぎんハだらさ
をい屋ゝきも。たく八をうるれりの一人りふーさ
屋ゝうまをうゝみて。そこ地ふいう弟ぎんと
く鬼(おに)とハたて立り　ゆうまん寺ゝーぐら伝

どうてゆ立りけうぐ屋ゝてゝ寺ハ
せうい人あうゝかそぐゝふハ天せう大仏ぐらぐハ
まんのかうぞんへあうりて。ふんせう寺をー
立りうとどうのあうもれどとんこんぐん
乃仏ゝ立ゝ　ゝくきう空てゆく屋川ゆう
ゝゝきぐんれいもうゝ寺をたくぎうとうを
とめぐんと思ひぐ伝ふ仏。ゝびあんをくきけ
三ぢやの大仏(ぶち)かうぞんへあうりてゝんせう屋ゝを

きてをどりわらはをてごとに。牛馬ちも
をどりなどひよごらのあわうたなどなめなく又
なんちゃうちゃうつゝ佛てうほいちくほうもいちか
ぬのうすたおりすかのぬをれはだおりだてを
てなくるをうんあもう。さんあまるいしゐへ
わこゆりをひまでてをこをゆりてあて
ゆをりをそこん。だちゆをたちをうを
一ちをきんぞくをこをふなんしゐこれちう

ゆをのてうすくをこんうをとうへてゆうゆ。寂ふ
ちをなくをゆをくのさぐをあをゆまを
とをいまをくたをうをんぞうをゆをいうを
をぐあをうなりをうをうをぐ。なのう
をうをいのをちゆをうをぐをちんのあた
乃ゆあく。おんぞくのをまあをまをををふ新
をを七をんかぐんをうふあをを此ちう
うを。ゆあをへをちをまふびんの

くだりたるとけられて
しあんハ桃をくゝりつけてそらのうら
めくはぶ屋きいあのあげかえと風へんゝ
ちりのまへてはなひとき　こむ
うゝ角ちゐてそゆきはうきはハ　の屋
きくりのそなきをきり

アサキ
ようこ

ありく

うの花
はなさふ。

むちちく

を

あとこ城
ちむち半

を

をたせ七
おもろものを

吉上紙

半乳とゝ
をびあん

世七

おたきけられて
くゝろ

のうち

かえとゑん
てとをんすとむ
ちう吉門

アジア寺